

「羅針盤」vol.28 校長 白岩博明

今、求められるものは何だろうか

新型コロナウイルス感染症拡大防止による広島県の緊急事態宣言が解除となり、6月1日(月)から学校再開となります。学校休業期間中に何度か登校日を設けたので生徒と会うことができましたが、やっと学校の“日常”に近い状態が回復し、いつもの生徒の歓声や笑顔に出会えると思うと心が躍ります。

4月15日(水)から1か月半の学校休業でした。生徒にとってこの間の制限や自粛、本来できることが思うままにならないという自己コントロールは本当に辛く、長かったはずで。前号において、「自分の成長にとって“判断力と決断力”が試されている期間だと思ふべきです。どう過ごしたかを振り返ったとき、できるだけ後悔しないようにしたいものです」と述べました。生徒はいったいどんな過ごし方を実践できたのでしょうか。「残念ながら不規則な生活が続いてしまった」「昼夜逆転の生活でした」「睡眠不足に陥ってしまった」などという声を聞きました。しかし、一方では「だらけるかと思ったけど、規則正しく生活できました」「ちゃんと課題をこなせました」「腹筋を5,000回しました」という生徒もいたようです。学校が再開となったなら、改めて生徒からこの期間の出来栄を聞いてみようと思っています。

ところで、学校はICT(Classi)を活用した課題や動画配信を軸にして生徒の学習支援を行ってきましたが、当初からの不具合によって学校(教員)・家庭(生徒)双方がストレスを抱えることになってしまいました。生徒にとってはこのストレスも生活リズムの変調に影響したのかもしれませんが。この点は学校として深く反省し、同じ轍を踏まぬよう改善に向けて取り組み、新たなICTの構築を準備しています。

自粛解除といっても完全にもとの生活に戻るわけではありません。「収束」という二文字が見えるまではマスク着用や「3密」の防止、ソーシャルディスタンスの遵守などは心がけ続けていかねばなりません。“普段の生活”に感染リスクが潜んでいるという非常事態は続いているのですから。2月からこれまでの新型コロナウイルス感染症拡大防止策及び「ステイホーム」という自宅待機を余儀なくされた間を経て、今、我々に何が求められているのでしょうか。私は次の2つを上げたいと思います。

まず1つは、前号でも触れたことではありますが、やはり「正しく恐れる」ことを忘れないことです。新型コロナウイルスに限らずウイルスは目に見えるものではありません。極端に恐れてはならないし、逆に油断してもいけません。人から人への飛沫感染が主たる感染ルートであることを理解し、科学的な事実に沿って行動しなくてはならないということです。また、このたびのウイルスには特效薬がありません。既存の薬の効果を試したり、新薬の開発が急ピッチで進められたりしているようですが、未だ光明は見えていません。周知のとおり、罹患した場合には高い確率で重篤化し、死に至っているのです。自分だけではなく、家族や友人などの生命・健康・安全を守るため、取れる感染防止のための手立ては当分の間習慣化すべきでしょう。

そして、2つめは、「レジリエンス」を持つことです。レジリエンスとは、逆境から素早く立ち直り、成長する能力のこと。折れない心とかしなやかな心のことです。入学したばかりの中1、高1の生徒は新たな環境に向かって、一步を踏み込むはずだったのに。中3、高3の生徒は定めた進路に向かって着実に準備を整えるはずだったのに。残念ながら時間は巻きもどせませんが、失ったものや条件は誰もが一緒です。気持ちを奮い立たせ、今できることに徹してみましょう。言わずもがな、中2にも高2にも同様に求められることです。

4月の新学期は1週間しかありませんでした。6月1日からを新学期のスタートと見立て、新たな気持ちで学校を再開します。その意味において、「協創教育」、とくに建学の精神「報恩感謝・実践」の具現化をこれまで以上に意識して取り組んでいきます。これこそ本校のレジリエンスになるのです。学校休業期間で得たこととして、今、求められるものです。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を心から願っています。



(5月21日登校日、高校1年生の教室での様子)